

講義名	特別講義（イノベーション・マネジメント）			授業形態	
担当教員	井上 芳郎	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2 時限		
		単位数	0	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	

### 主題と概要

経営学科だけでなく、全大学院のすべての院生も知っておくべき体系知  
イノベーション（経営革新）の基礎知識がなくても、1から優しく導入・解題・解析を進める  
「資本主義の本質はイノベーションである！」  
「イノベーションの本質は創造的破壊である！」  
「発明、イノベーション、普及・模倣」を一体どのように理解すればいいのかわかるか？

100年以上前にシュンペーター（1911）に提起された「新結合」を特徴としたイノベーションの概念は日本においては「技術革新」（内閣府（1956）『経済白書』）と認識されて久しい。つい最近、製品開発など生産やモノづくりの領域だけではなく、流通販売など消費やコトづくりのサービスの範囲までも拡大しつつある。つまり、製品イノベーションだけではなく、サービスイノベーションもこの分野の射程に収められ、研究教育の膨大な知識が蓄積されている。

他方で、一橋大学（文科系）：日本のイノベーション研究教育の最高峰の代表大学として、かなり組織的に取り組んでいる。学部や大学院だけではなく、イノベーション研究センター、IIPP（Innovation Management Policy Program）など、多くの組織によるイノベーションに関する多層的な研究教育プログラムが数多く設置されている。東京大学（総合系）：工学部を中心に、経済学部やイノベーション政策研究センターでも展開されている。他には、神戸大学、東京工業大学、法政大学、東京理科大学、関西大学なども導入されている。本学の学部では、「イノベーション論」の授業もあるが、産学連携・マーケティング・デザインなど業務レベルにとどまっているようである。

本大学特別講義では、この分野の知識・能力を持つために必要な課題が選定され、文献レビューとディスカッションを行うことを通じて、受講者が研究を遂行していくためにこの分野に求められる基礎力を形成することを目指していく。

### 到達目標

大学院レベルで体系的・包括的にこの学問分野を学ぶ。経営学、組織論、戦略論の俯瞰的な視野で、イノベーションをモノ（製品）とコト（サービス）の両面から捉え、この分野の奥深さと幅広さを紹介する。古典的な文献と代表的な文脈のみならず、最新の文献をも取り入れ、イノベーション分野に関する知っておくべき知識や理論/パラダイムを習得する。上記について受講生の立場から「できるようになる」という表現で記述する。少々とどくなるが確認してほしい。なお「できるようになる」という表現が不適当な場面では別の表現としている。

経営学、組織論、戦略論の俯瞰的な視野でイノベーションを理解することができるようになる。  
イノベーション分野に関する知っておくべき知識や理論/パラダイムを習得している。

以上。

### 提出課題

1. 期末試験と期末レポートは実施しない。
2. 毎回の授業で提出するレポートがすべてである。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回、導入、解題、解説と振り返りを行う。原則として授業中におこなう。

### 評価の基準

1. 毎回出席し、輪講発表や討論参加は必須である。
2. 毎回、事前課題を熟読したうえ授業参加する心構えが必要。
3. 報告者は報告を、参加者は質問を、また全員は積極的に授業へ討論・貢献をすること。

<おおよその配点>  
\*出席及びノート提出：30％  
\*輪講時の報告内容（出席点は含まない）：30％  
\*授業への貢献：40％

上記はあくまでも目安である。その他の要素を考慮して総合的に判断することは言うまでもない。

毎回、受講者は事前課題を熟読し、読書ノートを作成したうえ授業に参加する心構えが必要である。

輪講ではなく演習の形で全員参加する必要がある  
毎回教員は問題提起・解題・点評・説明を、報告者は報告を（2頁の報告資料を全員分用意して、15分以内発表する）、参加者は質問・討論（全員、1頁の資料を教員へ提出する）を、全員参加型授業で進める。

この授業は対面を原則とする授業ですが、社会状況あるいは受講生の状況により、オンライン（オンデマンド）で提供する場合があります。仮にオンライン（オンデマンド）授業を行った場合でも、対面型授業の評価方法と同一とします。ただ、課題等の提出方法は別途設定することとします。

### 履修にあたっての注意・助言他

1. 大量の読書・ノートの時間は必要。最低目安：輪講報告者は週6時間、参加者は毎4時間。
2. 古冊を善用する。学んだ古典文庫を現業社会に積極的に活用・分析してみる。
3. 能動的な集団学習。相互の啓発、知的な刺激が大変である。
4. 教員と履修者は毎回、配布必須資料のほかに、適宜、関連する文献や情報・課題を教室までに持ち込み、全員発言討論型・参加型型の授業を行っていく。
5. 参考：過去の履修者の成績はすべて優秀だった。

この授業は対面を原則とする授業ですが、社会状況あるいは受講生の状況により、オンライン（オンデマンド）で提供する場合があります。

### 教科書

.使用しない。

### 参考図書

### その他

プリントは毎回、来週資料を事前に配布する。  
参考文献は、以下の授業計画を参照のこと。ただし、実施段階で分権の変更を行う場合がある。

### 授業計画

- 1 イントロダクション：授業の進め方、科目の位置づけ、概要（内閣府（1956）『経済白書』抜粋等導入資料）
- 2 イノベーションの起源と概念（シュンペーター（1911）『経済発展の理論』邦訳版1977 岩波文庫）
- 3 製品イノベーションとプロセス・イノベーション：生産性のジレンマ=A.Uモデル（アッターバック・アパナシー（1975, 1978, 1998）『イノベーション・ダイナミクス』）
- 4 イノベーションの発生と普及（山川（2000）『イノベーションの発生理論』）
- 5 イノベーションと知識創造：（野中・竹内『知識創造企業』）
- 6 イノベーションのジレンマ：特長的 vs 破壊的イノベーションの論理（クリステンセン（1997, 2003, 2014））
- 7 イノベーションと組織：A・ドリック『イノベーション企業家精神』、野中・竹内『ワイズ・カンパニー』
- 8 オープン・イノベーション（チェスブロウ（2004）『オープン・イノベーション』）
- 9 サービス・イノベーション（近藤（2012）『サービス・イノベーションの理論と方法』、チェスブロウ（2012）『オープン・サービス・イノベーション』）
- 10 ユーザー・イノベーション 加藤謙・高橋・栗木・高橋（2014）『顧客との価値共創 一橋ビジネスレビュー2014春季号』）
- 11 デザイン・イノベーション（ベルガンティ（2012）『デザイン・イノベーション』）
- 12 リバース・イノベーション（ゴピンダラジャン・トリンブル（2012）『リバース・イノベーション』）
- 13 ビジネス・モデルのイノベーション（チェスブロウ（2004）『オープン・イノベーション』、（2012）『オープン・サービス・イノベーション』）
- 14 デジタル・イノベーション・システム（NIS）（一橋大学イノベーション研究センター『イノベーション・マネジメント入門』）
- 15 まとの講義：

2021年前期に掲載したシラバスと、第5回、第7回、第14回、第15回の内容（テーマあるいは参考資料）を変更した。  
また、状況により、テーマ及び文献を変更する場合がある。具体的な内容については、初回授業の際に改めて説明する。

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> I：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> U：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> E：グループワーク
<input type="radio"/> O：プレゼンテーション	<input type="radio"/> K：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> K：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 履修学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

読書と思考・討論を習慣に付けてください。大量の読書・ノートの時間は必要。最低目安：輪講報告者は週6時間、参加者は毎4時間。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポートや課題に対しては、webシステムの活用を原則とします。

### 実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」。本学に着任したのは2002年4月。その前は経営コンサルタントとして13年活動。その経験を授業に活かしていきたい。

### 備考

全員、事前に資料と心構えを準備したうえ、授業に臨んでください。